

尾張北支部

尾張北支部(金田英治支部長)は、11月8日(水)、9日(木)の両日、三恵エナジー株式会社・三恵エナジーパーム油バイオマス発電所(京都府福知山市)の施設見学会を行いました。施設見学の目的として、社会の動きや世の中の変化に対して、柔軟な思考力を持つべきではないかという役員の意見もあり、通常の施設見学とは違う観点から目的地の選定を行いました。

初日は午前8時名古屋駅西口に参加者12名が集合して観光バスに乗車し、高速道路を利用し宮津天橋立ICで下車、天橋立で昼食を取りました。その後目的地である三恵エナジーパーム油バイオマス発電所に向かいました。同発電所は日本初の非食用パームオイルを燃料とする2MW規模のバイオマス発電施設であり、約1,800平方メートルの敷地にコンパクトな発電施設を設置し、同規模の太陽光発電施設と比べて6倍以上の年間発電量が見込めるとのことです。

同施設は平成29年7月3日に竣工式が行われ事業が開始されました。既にテスト運転をしていた三恵福知山バイオマス発電所は、ほどなくパームオイルを燃料とする発電事業を本格的にスタートさせ、事業計画の立案からおよそ一年半で順調に操業しているとのこと。今後はパームオイル発電事業の新規参入に対するコンサルタント業務にも積極的に取り組み、日本国内での普及率を高めることを目指

施設見学会



しているとのこと。

パームオイルによる発電事業は、他の発電施設に比べて土地や設備の面でコンパクトなパッケージで導入することができるため、初期コストが低いことも特長の一つだそうです。また、太陽光発電や風力発電などとは異なり、天候や時間帯の影響を受けずにプラントの稼働が可能であり、実質24時間発電し続けることができ、安定的な事業収益が見込めることが大きなメリットだということです。

見学会を終えて、三恵エナジーのバイオマス発電は新しい取組として関心を持ち、施設も開設されたばかりの旬な施設ということで興味深い点が多々ありました。また産廃業界全体の先行きに不透明感を感じる昨今、リサイクルによる廃棄物の減少が、産廃業の仕事量の減少につながるのではないかと不安感もあり、今後各社の新規事業として検討する方が多いのではないかと感じました。

2日目は、竹田城跡、竹田城城下町を訪れました。竹田城跡は「日本のマチュピチュ」とも呼ばれ、雲海に包まれた姿は天空に浮かぶ城を思わせます。神秘的な歴史的建造物を目の当たりにして感慨深く、支部会員同士の結束を改めて感じられる有意義な社会学習となりました。午後2時頃に観光バスは名古屋への帰路につき、6時に名古屋駅に到着し施設見学会は無事に終了しました。(出典：三恵エナジーパーム油バイオマス発電所ホームページ)

